

2025 年 5 月 28 日

株 式 会 社 三 菱 UFJ 銀 行
三 菱 UFJ キ ャ ピ タ ル 株 式 会 社

スタートアップの成長を支援する 300 億円のベンチャーキャピタルファンドの設立について

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下 三菱 UFJ 銀行）と三菱 UFJ キャピタル株式会社（代表取締役 小島 拓朗、以下 三菱 UFJ キャピタル）は、今般、総額 300 億円の基幹ファンド「三菱 UFJ キャピタル 10 号投資事業有限責任組合（以下 MUC-10）」を設立いたしました。今般の MUC-10 の設立により、三菱 UFJ キャピタルが運用するファンドの総額は 1,700 億円となります^[1]。

政府は 2022 年に掲げた「スタートアップ育成 5 か年計画」において、2027 年にスタートアップへの年間投資額を 10 兆円規模にすることを 1 つの目標に掲げ、官民一体での取り組みを推進しています。計画も折り返しに差し掛かり、スタートアップの企業価値を高めていくことが求められている中、本年 4 月に東京証券取引所グロース市場の上場維持基準の見直し案が示される等、スタートアップには上場後も含めた持続的な成長を見据えた経営が一層重要となることが予想されています。

また、2027 年までに多くのベンチャーキャピタルファンドが満期を迎えると見込まれており、ディープテック領域といった長期に亘る支援が必要なスタートアップへの持続的な支援が求められています。こうした背景も踏まえ、今般、MUC-10 の設立に至りました。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（以下、MUFG）は 2024 年度に開始した中期経営計画で「産業創出・イノベーション支援」を優先的に取り組むべき社会課題と位置づけ、スタートアップへの安定的な資金供給による企業価値向上支援を金融機関の使命の 1 つとして考えています。

そのなかで三菱 UFJ キャピタルは、本邦ベンチャーキャピタル黎明期の 1974 年に設立以来、市場環境に左右されることなく一貫して成長が期待できる幅広い業種の法人のお客さまに対して成長支援を続けており、IPO 関与社数も 930 社以上と業界でも有数の実績を積み重ねてきました。そして昨今、スタートアップに一層の企業価値向上が求められている中、引き続き多種多様な業種やステージのお客さまに対し、継続的なファンド組成を通じた安定的な成長資金の供給を行うことに加え、セカンダリー取引^[2]や Exit の多様化にも挑戦していくことで、持続的なスタートアップへの成長支援を実現いたします。

<MUC-10 の概要>

名称	三菱 UFJ キャピタル 10 号投資事業有限責任組合
出資金総額	300 億円
ファンド出資者	三菱 UFJ 銀行、三菱 UFJ キャピタル
運営会社	三菱 UFJ キャピタル
ファンド期間	10 年
投資対象	全般（除くライフサイエンス分野） ^[3]

[1] 三菱 UFJ キャピタルが無限責任組合員を務めるファンドの総額

[2] 未上場株式の 2 次流通取引

[3] 三菱 UFJ キャピタルはバイオ医療品や再生医療、医療機器等に特化したライフサイエンスファンドを運営中

MUFG では「世界が進むチカラになる。」というパーパスのもと、2025 年度よりスタートアップ支援領域のタグラインとして「さあ、世界を驚かせに行こう！」を新たに掲げました。MUFG は、スタートアップと同じ目線で並走し、金融支援だけでなく、MUFG が有するグローバルネットワークや多様なソリューション等の総合力を活用し、グループ一体で様々な面でスタートアップが進むチカラになることで、社会課題解決や産業育成の実現に貢献していきます。

以 上